

平成29年度北海道大学大学院

文学研究科修士課程入学試験問題（前期）

試験区分	<input checked="" type="checkbox"/> 一般入試 <input checked="" type="checkbox"/> 外国人留学生特別入試
試験科目名	<input checked="" type="checkbox"/> 専門試験（日本語科学） <input type="checkbox"/> 共通外国語（）
出題の意図	<p>出題する問題は、大学院で日本語とその関連領域を科学的に研究する際に必要な基本的知識を習得済みかどうかを確認するための設問と、研究を十分に遂行する能力を見るために、具体的事例の分析を軸に論理的表現力や応用的な説明能力を測るための設問からなる。いずれも、日本語を主たる対象に科学的な言語研究を行う上で必須となる知識と資質について受験者の準備状況を確認することを主たる出題の意図とする。</p>

平成29年度  
北海道大学大学院文学研究科修士課程入学試験問題（前期）  
（専門試験） 日本語科学 全1枚のうち1枚目

この試験では、試験問題 1枚、解答用紙 3枚を配付する。

問1から問3まで全問日本語で解答しなさい。設問はそれぞれ別々の解答用紙に記入すること。

問1 以下の用語のうち4つを選んで、日本語の例を挙げるなどして具体的に説明しなさい。なお、選択した用語の記号を最初に付すこと。解答の順序は問わない。

- a. 語形分岐
- b. 転成名詞
- c. 数量詞遊離
- d. 後方照応
- e. 発話内行為
- f. 受益構文
- g. ライマンの法則
- h. 準体助詞
- i. モーラ音素
- j. 喚体

問2 どのような文の類型を設定するかは、通言語学的に普遍性が見られる反面、言語ごとに異なる事情もある。日本語においてどのような文の類型が設定できるだろうか。また、その類型にはどの程度普遍性があるだろうか。以上、2点について論じなさい。

問3 日本語において、省略語がつけられるとき、どのような原理や原則があるかについて論じなさい。音韻構造や複合語形成など多角的に考察すること。

以上